

平成 21 年 4 月 10 日

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
委員長 北原和夫

第40回国際物理オリンピック (IPhO2009) メキシコ大会 日本代表決定について

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会 (委員長: 北原和夫 (国際基督教大学)) は、第 40 回国際物理オリンピック (期間: 2009 年 7 月 11~19 日 開催国/都市: メキシコ/メリダ) に派遣する日本代表 5 名を決定した。

国際物理オリンピックは、1967 年にポーランドのワルシャワで第 1 回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育が一層発展することを目的として、毎年開催されている。

わが国は 2006 年、第 37 回国際物理オリンピック IPhO2006 シンガポール大会に初めて日本代表 5 名を派遣し、以来毎年参加しメダルを獲得している。2008 年の第 39 回国際物理オリンピック IPhO2008 ベトナム大会では、金メダル 1、銀メダル 1、銅メダル 1 という好成績を収めることができた。

今回日本代表となった 5 名は、昨年夏に行なわれた「第 4 回全国物理コンテスト『物理チャレンジ 2008』」(応募者 769 名)において優秀な成績を収めたことにより日本代表候補者として選抜され、昨秋からのインターネットを利用した「理論問題通信添削」、近隣の大学等を会場に実施された「実験実習指導」、冬休みに行われた「実験実習合宿研修」、さらに春休みに行われた「最終選考合宿」を経て決定された。

5 名は、引き続き国際大会参加に向けたトレーニングに参加し、今年 7 月の「第 40 回国際物理オリンピック (IPhO2009) メキシコ大会」に備える。

なお、2010 年クロアチアで開催される第 41 回大会日本代表選考を兼ねる国内コンテスト「物理チャレンジ 2009」は現在参加者を募集中。締め切りは 4 月 30 日 (当日消印有効)。詳しくは、ホームページ <http://www.phys-challenge.jp>

第 40 回国際物理オリンピック「IPhO2009」日本代表選手

氏名	フリガナ	性別	学校名(所在地)	学年
蘆田 祐人	アシダ ユウト	男	慶應義塾高等学校(神奈川県)	3年
安藤 孝志	アンドウ タカシ	男	愛知県立旭丘高等学校(愛知県)	3年
難波 博之	ナンバ ヒロユキ	男	岡山県立岡山朝日高等学校(岡山県)	3年
東川 翔	ヒガシカワ ショウ	男	茨城県立水戸第一高等学校(茨城県)	3年
横田 猛	ヨコタ タケル	男	西南学院高等学校(福岡県)	3年

※ 以上 5 名 氏名 50 音順

<この件についての問い合わせ先>
物理チャレンジ・オリンピック日本委員会事務局
東京都千代田区北の丸公園 2 番 1 号
財団法人日本科学技術振興財団内
TEL 03-3212-8518 FAX 03-3212-7790
担当 : 大野、高畑(こうはた)
E-Mail : physchal@jsf.or.jp
URL : <http://www.phys-challenge.jp>

日本代表のコメント

蘆田 祐人：

しっかり体調を整えて、メキシコでおいしいものを食べながら、リラックスして試験に臨めれば、と思います。

安藤 孝志：

今までサポートしてくださった学校の先生、友達、スタッフの方々の期待に応えられるよう、上位入賞をめざして頑張りたいと思います。

難波 博之：

日本代表として恥ずかしくない成績を残せるよう全力で努力していきたい。

東川 翔：

国際大会まで頑張っていきますのでご指導よろしくをお願いします。

横田 猛：

日本代表の一人に選ばれ、大きな喜びを感じています。国際大会ではメダル獲得を目標に、自分が持つ力のすべてを発揮したいと思います。また、世界中の物理好きと交流できることを楽しみにしています。

「国際物理オリンピック」について

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、開催国を持ちまわりとして毎年開催されている。国際大会の参加資格は、20歳未満で且つ大学などの高等教育を受けていないこと。

各国内で選抜された最大5名の代表たちが、大学・高校教員からなる引率役員（リーダー、オブザーバ）とともに参加する。10日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて、他国からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

近年の開催国／都市は、2004年韓国／浦項、2005年スペイン／サラマンカ、2006年シンガポール、2007年イラン／イスファハン、2008年ベトナム／ハノイ。参加国数は増加傾向にあり、ベトナム大会には、82カ国・地域から370名の代表が参加した。今年2009年はメキシコ／メリダ、2010年はクロアチアで開催される。

我が国は2006年の初参加より毎年代表を派遣し、メダルを獲得している。昨年のベトナム大会では、金メダル1名、銀メダル1名、銅メダル1名と入賞2名という好成績をおさめることができた。

＜今回の大会＞

- 「第40回国際物理オリンピック（IPhO2009）」【開催概要】
 - 会 期： 2009年7月11日～7月19日 9日間
 - 開催国／都市： メキシコ合衆国 / メリダ市

＜前回の大会＞

- 「第39回国際物理オリンピック（IPhO2008）」【日本参加概要】
 - 会 期： 2008年7月20日～7月29日 10日間
 - 開催国／都市： ベトナム社会主義共和国 / ハノイ市
 - 参加国数／参加者数： 82カ国・地域 / 370名
 - 結 果： 金メダル1名 銀メダル1名 銅メダル1名 入賞2名

日本国内の物理コンテスト「物理チャレンジ」について

「物理チャレンジ」は、大学等に入学する前の青少年を対象として物理の持つ面白さと楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模の物理コンテストで、国際物理オリンピック日本代表選考を兼ねている。

「物理チャレンジ」は、ふたつの段階から構成されており、はじめの「第1チャレンジ」は、「理論問題コンテスト」と「実験課題レポート」からなる。理論問題コンテストは全国一斉の会場試験、実験課題レポートは自宅や学校で課題実験に取り組みそのレポートを郵送で提出する。

「第2チャレンジ」は、第1チャレンジにより選抜された100名が、夏休みに一堂に会する3泊4日の合宿形式のコンテスト。理論問題と実験問題についてそれぞれ5時間の試験を実施する。ここでは成績上位6名に金賞、続く12名に銀賞、続く12名に銅賞、さらに続く約20名に優良賞等を授与する。

第2チャレンジで優秀な成績をおさめた参加者から、翌年の国際物理オリンピック日本代表候補を10～15名程度選出し、5ヶ月間にわたる通信添削、大学等を会場とした実験実習、冬休み及び春休みの合宿研修等の教育研修を実施したのち、最終選考を行い5名の日本代表を決定する。

なお、第2チャレンジの期間中には合宿形式のメリットを活かして、試験ばかりでなく第一線物理学研究者との対話、最先端研究施設の見学、そして参加者同士ならびに参加者と実行委員である（物理学研究者）との交流を深める機会なども織り込んであり、物理に興味を持つ若者にとって充実した4日間となる構成としている。

今年開催の「物理チャレンジ」（国内の物理コンテスト）

第5回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2009」

主 催：物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

共 催：日本物理学会 応用物理学会 日本物理教育学会 日本生物物理学会

電気学会 日本機械学会 茨城県 茨城県教育委員会 つくば市

つくば市教育委員会 つくば科学万博記念財団 筑波研究学園都市交流協議会

筑波大学 高エネルギー加速器研究機構 岡山県 岡山光量子科学研究所

岡山大学 理化学研究所 全国高等学校文化連盟自然科学専門部設立準備委員会

日本科学技術振興財団

特別協賛：科学技術振興機構

協 賛：東レ 日立製作所 NTT 東京電力 東芝 パナソニック 三菱重工業

三菱電機 アジレント・テクノロジー Z会

協 力：産業技術総合研究所 宇宙航空研究開発機構 シュプリンガー・ジャパン

丸善 岩波書店 カルビー・アメリカ はるやま商事

後 援：文部科学省 朝日新聞社 日本経済新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 NHK

現在参加者募集中！ 参加申込み受付期間 平成21年4月1～30日

参加について詳しくはホームページで案内 (<http://www.phys-challenge.jp/>)

- 「第1チャレンジ」 実験課題レポート（平成21年5月25日 提出締切）
理論問題コンテスト（平成21年6月14日 全国70会場で実施）

- 「第2チャレンジ」 ※) 第1チャレンジから選抜された100名が参加

会 期：平成21年8月2日～5日（3泊4日）

開催地：茨城県つくば市 筑波大学ほか

内 容：理論及び実験問題（各5時間）、特別講話、研究施設見学、交流イベントなど

表 彰：金賞（6名）、銀賞（12名）、銅賞（12名）及び優良賞（約20名）など

以上